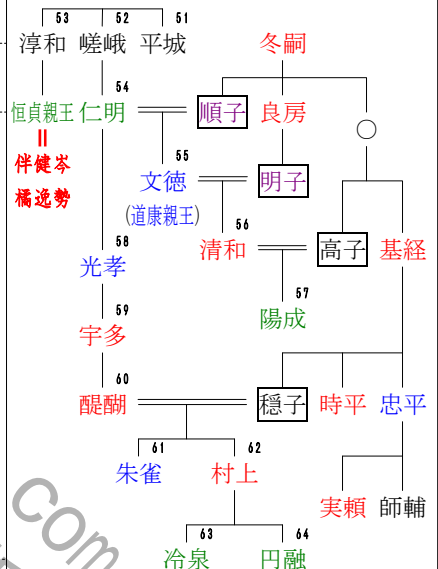


[A] 他氏排斥

政権担当者	政治・政争
仁明 藤原良房 (冬嗣の子)	842年 承和の変 (伴健岑・橘逸勢が恒貞親王を奉じて謀反を計画?) → 伴健岑 (隠岐配流)・橘逸勢 (伊豆配流) 恒貞親王 (廃太子)・道康親王 (皇太子) 父は淳和天皇 後の文徳天皇
文徳	850年 文徳天皇即位 → 良房 = 人臣初の太政大臣 (857) ↓ 文徳天皇が重病になったため
清和	858年 清和天皇即位 → 良房 = 事実上の摂政 (858) 9歳 ↓ 任命されていないが役割自体は摂政 → 良房 = 正式に摂政任命 (866)
872	866年 応天門の変 (平安京朝堂院の正門である応天門が炎上) 容疑者 = 源信 [左大臣] → 真犯人 = 伴善男 [大納言] → 伴善男 (伊豆配流)・紀夏井・紀豊城 (関連して配流) ★『伴大納言絵巻』(応天門の変を題材にした絵巻物)
陽成 光孝	876年 陽成天皇即位 (のち、殿上で殺人事件を起こし退位させられる) 884年 光孝天皇即位 → 基経 = 事実上の関白 55歳
宇多	887年 宇多天皇即位 → 基経 = 正式に関白 887年 阿衡の紛議 (阿衡事件) (~888) 基経を関白に任じた際の詔勅の中の「阿衡」の語句に基経が抗議 → 天皇は起草者の橘広相を処罰し、訂正した詔勅を発して解決 [寛平の治 (宇多天皇の親政)] 891 → ①基経死後、宇多天皇は摂政・関白を置かず ②滝口の武者 (宮中の警備にあたる武者) を設置 ③菅原道真 (蔵人頭) を登用 (もと漢詩文・歴史を教える文章博士) → 遣唐使廃止 (894) by 菅原道真 (遣唐大使) ★『菅家文草』(道真の漢詩文集)・『類聚国史』(六国史を部門別に分類) ④『寛平御遺詔』(宇多天皇が譲位の際、醍醐天皇に与えた訓成書 天皇としての心得・政治上の注意事項などを記す)
醍醐	899年 藤原時平 (左大臣)・菅原道真 (右大臣) 901年 昌泰の変 (藤原時平 (左大臣) が菅原道真 (右大臣) を讒言) → 醍醐天皇が菅原道真を大宰府に左遷 [大宰権帥] 902年 延喜の荘園整理令 (勅旨田の設置を禁止) 最後の班田収授 (班田収授法が廃絶) 914年 三善清行「意見封事十二箇条」 ★日本三代実録(901)・古今和歌集(905)・延喜式(927)
朱雀	920年 朱雀天皇即位 (幼少のため藤原忠平 [摂政・関白] が補佐) 8歳 935年~ 承平・天慶の乱 (平将門の乱・藤原純友の乱の総称)
村上	958年 乾元大宝 铸造 (皇朝十二銭の最後)
冷泉	969年 安和の変 (源満仲が源高明の娘婿が親親王擁立の陰謀計画?を密告) 源満仲 (摂津国多田荘に土着=多田源氏) の密告 → 源高明 (醍醐天皇皇子) [左大臣] を大宰府に左遷 ★『西宮記』(朝廷の儀式や年中行事を記した源高明の有職書) → 藤原北家の政治的地位は安定し、摂政・関白が常置されるようになった

図解NOTE [外戚]

①妻問婚 (別居で夫が妻の家に通う婚姻形態) 7C~
②招婿婚 (夫が妻の実家に住む婚姻形態) 11C~
(婿入婚)
藤原氏 = 天皇の母方の親族 (外戚)
婿入婚 (招婿婚) によって
天皇 = 娘 天皇の子供 (皇太子) は
母方の実家で育てられる
子 (次の天皇)
③嫁入婚 (妻が夫の実家に住む婚姻形態) 13C~
①摂関の地位
摂政 (天皇が幼少の期間に政務を代行する)
関白 (天皇の成人後に、後見役をつとめる)
②摂関の権限 (役人の任免権を持つ)
叙位 (位階の授与)・除目 (官職の任命)



903年の道真の死後に天災が相次ぎ、怨霊による祟りと畏怖されたため、天神として祀る北野神社を京都に建立
→ のち霊を祀る祭礼として祇園社と並ぶ御霊会も開催
★『北野天神縁起絵巻』(道真の生涯を描いた絵巻物)
この頃、律令体制に基づく班田収授法などは
淳浪・逃亡・偽籍などにより完全に崩壊 (P18)

[承平・天慶の乱 (935~941)]
①平将門の乱 (平高望の孫) in『将門記』
下総国 (千葉県) 猿島を拠点とする平将門の反乱
★叔父の平国香を殺害 (935), その後の 939 年に
常陸・下野・上野の国府を攻略し、自ら新皇と称す
→ 平貞盛 (国香の子)・藤原秀郷 [下野押領使] が鎮圧
②藤原純友の乱 (もと伊予掾)
伊予国 (愛媛県) 日振島を拠点とする藤原純友の反乱
★瀬戸内海の高嶽を率い大宰府を焼き打ち (939)
→ 源経基 (清和源氏) の祖・小野好古 [追捕使] が鎮圧

[B] 撰閣政治の確立 (天皇に娘を入内させ、天皇家の外戚として天皇を後見し、実権を掌握する政治形態) = 母系を重視

政権担当者	政治・政争	その他
<p>藤原兼通</p> <p>↓</p> <p>藤原兼家</p> <p>↓</p> <p>藤原道隆</p> <p>↓</p> <p>藤原道兼</p>	<p>[氏長者をめぐる藤原氏内部の争い]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★氏長者は<u>殿下渡領</u> (藤原氏の氏長者が代々所有する所領) を継承 ★重要政務は<u>陣定</u> (近衛の陣における太政官の会議) を参考に決裁 <p>①藤原兼家(弟) VS 藤原兼通(兄) 関白兼通没後、兼家が摂政・関白となる</p> <p>②藤原道隆(兄) VS 藤原道兼(弟) 道隆・道兼ともに流行り病で死亡→道長 VS 伊周へ</p> <p>③藤原道長(叔父) VS 藤原伊周(甥) 勝利した道長は内覧(関白に准じる役職)に就任(995) →敗れた伊周(兄)・隆家(弟)は大宰府へ左遷 [大宰権帥]</p>	<p>忠平</p> <p>実頼 師輔</p> <p>兼通 VS 兼家</p> <p>道隆 VS 道兼 道長</p> <p>伊周 隆家</p> <p>定子 一条 彰子</p> <p>清少納言 紫式部 妍子</p> <p>三條</p> <p>後一条 威子</p> <p>女 後朱雀 後冷泉 嬪子</p> <p>藤原氏を外戚とせず</p>
<p>一条・三条・後一条・後朱雀・後冷泉</p> <p>↓</p> <p>藤原道長 (御堂関白)</p> <p>↓</p> <p>藤原頼通 (宇治殿)</p>	<p>1016年 摂政に就任 <u>道長は関白になっていない</u></p> <p>1017年 太政大臣に就任 ★『御堂関白記』(藤原道長の日記)</p> <p>1018年 藤原威子が後一条天皇の中宮に入内 道長が『望月の歌』を詠む in『小右記』(藤原実資の日記) →出家後に<u>法成寺</u>(阿弥陀堂建築)を建立(1020)</p> <p>★約50年間、<u>摂政・関白をつとめる</u>(後一条・後朱雀・後冷泉天皇時)</p> <p>1019年 刀伊の入寇(沿海州の女真族(刀伊)が北九州に襲来) →藤原隆家(大宰権帥)が撃退</p> <p>1053年 平等院<u>鳳凰堂</u>(阿弥陀堂建築)を宇治に建立</p> <p>1068年 後三条天皇(藤原氏を外戚としない天皇)が即位</p>	

政変	概要
承和の変(842)	842年、嵯峨上皇が没した混乱に乗じ、皇太子恒貞親王の側近である伴健岑と橘逸勢が皇太子を奉じて東国に赴き、反乱を企てたと阿保親王(在原業平の父)が密告。首謀者として伴健岑は隠岐に、橘逸勢が伊豆に配流された。恒貞親王は皇太子を廃され、藤原良房の甥で仁明天皇の子道康親王(文徳天皇)が皇太子となった。伴健岑・橘逸勢らは冤罪の可能性がきわめて高く、権力の確立を図った藤原良房の陰謀と推定される。
応天門の変(866)	866年、平安京朝堂院の正門である応天門が炎上。はじめ左大臣藤原に放火の疑いがかかったが、大宅鷹取という人物が犯人として大納言伴善男を告発。善男は尋問に対して強く否認したが、鷹取の女を殺し鷹取を傷つけた事件で調べられた善男の従者2名が善男が源信を失脚させるために子の中庸に命じて放火させたと自白。伴善男・中庸父子を伊豆に、紀夏井・紀豊城らも関連して流罪となった。事件の真相は不明だが、事件の処理にあたった太政大臣藤原良房は、事件後摂政に任ぜられ、伴善男・紀夏井ら有能な官人を排斥することに成功した。
阿衡の紛議(887)	887年に即位した宇多天皇は、藤原基経に関白の詔を出した。基経は当時の慣例に従い辞退したが、橘広相が起草した詔書に「阿衡の任」につけるとあった。基経は「阿衡」は位のみで職掌がないとして以後出仕するのをやめ、天皇の信任の厚かった橘広相の断罪を図った。翌年に宇多天皇は勅書の非を認め、橘広相を罰して収拾した。天皇との外戚関係がなかった基経には、関白としての政治的立場を確認する狙いがあった。
昌泰の変(901)	左大臣藤原時平と右大臣菅原道真、政治を主導する宇多上皇と醍醐天皇には確執があった。901年、宇多上皇が菅原道真の娘婿の齊世親王擁立の陰謀計画があると藤原時平が醍醐天皇に讒言。宇多上皇や菅原道真の政治手法に不満を抱いていた醍醐天皇は、菅原道真を大宰権帥に左遷した。
安和の変(969)	969年、病弱の冷泉天皇譲位後の問題に不安を抱いていた藤原氏が、策略によって左大臣源高明(醍醐天皇の皇子)を失脚させ、大宰権帥に左遷した事件。源高明が娘婿で皇位継承資格のある為親王(村上天皇の皇子)擁立の陰謀計画があると源満仲が密告。満仲は密告の功で昇進した。

[NOTE]

